

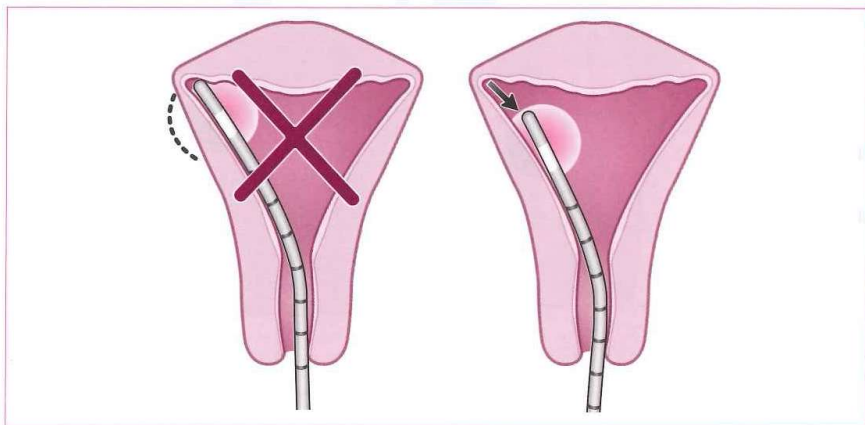
4. マイクロ波子宮内膜アブレーション(MEA)

山本泰弘 浅川恭行

この手術のコツ

- 症例選択においては、子宮筋層の厚さが卵管角部を除くすべての部位で10 mm以上確保されていること、子宮内膜全域にアプリーターが容易に到達できることを厳守する。
- 実際の焼灼操作は超音波でのモニタリング下に行い、まず子宮体部の左右側壁の奥から手前に、続いて正中奥から手前の順に焼灼すると、安全性の担保と必要十分な焼灼を行うことができる。

手術の実際



1 実際の手順①

経腹超音波での観察下に、子宮の側壁卵管角部までアプリーターを挿入し、そこから5 mm～1 cm 引いたところから焼灼を開始する。卵管角部の焼灼はマイクロ波の影響が子宮外に及ぶ可能性があるため、原則禁忌である。